

ふくい詩の風

県詩人懇話会選



森のふくろうへの独言

柳田国男「女の咲顔」から

小田 富英



届くかわが無音の独言 訊けるか翁の再生の詩

今朝も

お笑い番組ではないのに人の発言を鎖す高笑い  
と本音を引き出すマイクに向かったたつくり笑い  
がこの国の心を凍らせる

エガオは笑うまいとする慎みのひとつであったはずなのに

翁は

政治と戦闘の季節のなかで人格の承認と個性の  
尊重を赤子の前の高盛り飯に見た面側に小さく  
穴をあけエクボができるようにと願った前代の  
親たちの身になり心になり

時代の流れに棹さす学びをつくりたかったのだ

ワラヒは

もともとワラフで割ること笑いの相手がいれば  
不快と差別を与えていたとの翁の言葉で今を見  
ればあの高笑いやつくり笑いにもさみしい合点  
と納得がいへ

我らは今エミにせずしすとした希望と喝采を送れるか

笑われてもよい者を

いかに少なくするかが永い間の人々のこんこん  
とした努力であったとあの暗い時代に翁よ

よく言ってくれたものだ

己れ一身の為にするエガオよりも人に何物かを  
与えようとするエガオに次の女人の心の余裕と

幸せな集いを見ていた翁に

今、我らはどつとどつと胸張りホホエミ返せるか

おだ・とみひで 1949年生まれ。詩誌「角」同人。  
東京都小金井市。